



文教大学教育研究所
〒343-8511
埼玉県越谷市南荻島 3337
Tel. 048-974-8811

教育研究所 ニュース

<http://www.bunkyo.ac.jp/faculty/kyouken/>

2026.11 第55号

- 巻頭言
- 世界の教科書展
「イタリアの教科書」
- 海外の教科書所蔵一覧
- 桶川市〈世界の教科書
巡回展〉のお知らせ
- 「文教大学の授業」
2026年度「定例研究会」

「イタリアの教科書展」開催にあたって—文化の継承と創造—

文教大学教育研究所 研究部主任 萩原 敏行

教育研究所が35年以上にわたって続けている世界の教科書・教材等の収集事業は、すでに1万点を大きく上回っている。この収集事業は、教科書・教材を通して、各国の教育制度やカリキュラムを知るきっかけとなるとともに、その国の教育がその時代に何に価値をおいて教育を行ってきたのか、次世代を担う子供たちに何を伝えようとしているのかを明らかにする「保存記録」（アーカイブ）を蓄積するという責務も担っている。

そして本研究所では、その一端を文教大学越谷校舎の学園祭である藍夢祭で展示・解説し、有識者を招待しての講演を行ってきた。昨年の「エジプトの教科書展」に続く本年は、地中海を挟んだ国、「イタリアの教科書展」が開催される。

イタリアの教育を考える際、特徴的なのが「文化の継承」という視点である。長い歴史の中で生み出されてきた文学、美術、建築などの文化遺産を、単に保存するだけではなく、次の世代へ伝えていくことが学校教育にも求められている。芸術教育において、作品の表現や鑑賞とともに、その歴史的・社会的背景や文化遺産としての価値を学ぶことが重視されるのもその表れである。

文学教育についても同様である。イタリアの歴史を彩る文学作品は、過去の優れた作品として学ぶだけの対象ではない。作品を通して、言語の歴史、社会、思想、さらには自分たちが受け継いできた文化そのものを考える契機となる。

しかし、文化の継承とは、過去の文化をそのまま子供に手渡すことではない。ここで注目したいのが、スペインで生まれ、イタリアでも実践されてきた「読書へのアニメーション」である。この実践では、読み聞かせや対話、遊び、創作などを通して、子どもを受動的な読者ではなく、作品に働きかける主体へと導いていく。豊かな文学作品は、読む人によって問い直され、新たな意味を与えられることで、現在を生きる文化となっていくのではないだろうか。

「継承」と「創造」は決して相反するものではない。受け継いだ文化と出会い、それを読み、語り、表現し直す。その営みの中で文化は新たな生命を得て、次の世代へとつながっていく。

イタリアの教科書を手に取ることを通して、そこに何が書かれているかだけでなく、子供たちが文化とどのように出会うことを期待されているのかにも目を向けたい。それは同時に、日本の教育が、何を継承し、そこから何を創造しようとしているのかを改めて考える機会にもなるはずである。

2026年度「世界の教科書展」 特集 イタリアの教科書

2026年10月30日（金）から11月1日（日）
藍夢祭参加 12102 教室

今回で32回目となる「世界の教科書展」は、教育研究所の特色ある取り組みのひとつである。

各回のテーマとなる国や地域の教科書を展示し、その地域の文化や教育制度を紹介してきた。学内の学生・教職員だけでなく、学外の教育関係者や一般の方々にも来場いただき、教科書を通して世界の教育について考える場となっている。

今回特集するのはイタリアの教科書である。イタリアというと、長い歴史をもつ都市や豊かな芸術・文化を思い浮かべる人も多いだろう。しかし、そうした文化を次の世代へどのように伝え、これからの社会を生きる子供をどのように育てようとしているのかという教育の側面は、日本では必ずしも広く知られていないといえない。

近年のイタリアでは、多様な子供たちがともに学ぶことを重視する傾向がある。障害や特別な教育的ニーズをもつ子供の学習を通常の学校・学級の中で支えるインクルーシブ教育に加え、移民を背景にもつ子供の増加を受け、多文化・多言語の共生が学校教育の重要な課題となっている。教科書に描かれる家族や地域社会、歴史、文化、社会の姿からも、「どのような人間を育て、どのような社会をつくろうとしているのか」を読み取ることができるのではなかろうか。

教科書は単に知識を伝える教材ではない。そこには、その国や社会が子供たちに伝えたい文化や価値、そして教育に対する考え方が映し出されている。イタリアの教科書を見ることは、イタリアを知ると同時に、普段当たり前のように使っている日本の教科書や教育を別の角度から見直すことにもつながる。藍夢祭期間中の展示資料と早稲田大学の宮坂真依子先生の講演を通して、世界の教育、そして日本のこれからの教育について考える機会としていただきたい。

（研究部主任 萩原 敏行）

～ 今までに開催した教科書展ポスター ～



皆さん、文教大学教育研究所を知っていますか？
越谷キャンパスの文化祭（藍夢祭）の期間中に《世界の教科書展》を開催しているのが教育研究所です。
教育研究所には33国の教科書、約10,000冊が所蔵されています。
世界の教科書に興味があり、実際に触れてみたいという方は、ぜひ足を運んで下さい。【10号館2階：月～金曜日 / 9時～14時】

教育研究所所蔵の 海外の教科書

教育研究所では 1991 年の創設時より海外の小学校・中学校教科書を収集している。これまでに収集した小学校教科書の内訳は下表のとおりである。また、2017 年度には公益財団法人モロロジー研究所から海外 18 か国 7,249 冊の教科書を受贈し、本研究所が所蔵している世界の教科書コレクションは 33 か国 10,364 冊となった。

研究部ではこれらの教科書をもとに各国の教育制度や教育事情を研究し、その成果を「世界の

教科書展」において毎年発表している。今年度は、イタリアの教科書を集め、教科書実物を手に取ってご覧いただいた。

海外の教科書を収集・保管する学術機関は少なく、またそれらの購入も容易ではないため、ここ数年ではマスコミをはじめとする各方面からの問い合わせや取材申し込みが増えており、貴重な資料として注目されている。海外の教科書については、貸し出しはおこなっていないが、研究所での閲覧は自由であるため、ご覧になりたい方は教育研究所（10 号館 2 階）までご連絡のうえ、お気軽にお越し頂きたい。（小薮 由佳子）

諸外国の教科書所蔵数一覧

小学校 (2026/9/30現在)	国語	社会	算数	理科	生活科	総合科	音楽	美術	健康体育	実科	英語	日本語	道徳宗教	情報	国際理解	その他	計(冊)
アメリカ	42	16	46	8		5										3	120
イギリス	20	12	8	12										10			62
イタリア	30	16	16	7		7		3			18		7			23	127
インド	141		5			10			7				9	15			187
インドネシア	6	12	6	6				6	2		6		6			6	56
エジプト	19	9	10	6	20						16		20				100
オーストラリア	60	7	23	18				6	10	6		3	3		1	7	144
オランダ	2	3	6	6							1					2	20
韓国	26	14	23	16	10		4	4	8	2	6		10			8	131
ケニア				3													3
シンガポール			23	13					6		5						47
スイス	2		1														3
スペイン	6	4	6	6		4					6		7	2		1	42
スリランカ	7		5								6		6				24
タイ	12	6	7	6	1	1		2	6	6	6					6	59
台湾	21	14	22	14	6	20		22	21		20						160
中国	10	11	16	15			6	5			44		6			1	114
ドイツ	8		11		20	4	2	3			17		3				68
トルコ	10	10	9	2	5		6				15		9	1		12	79
バングラディシュ	5		3								1					3	12
フィンランド	28	7	26	18							13						92
ブラジル	10	9	9	9				5			5		11			6	64
フランス		10	7								20						37
ベトナム	14	3	8	6	3		5	5	3	2			4			2	55
ポーランド	4	8	10	4		6	3	6			6			6			53
マレーシア	36	6	33	22	7		3	5	15	3	33		24	3		15	205
ラオス	10		10		10			5	5		6					5	51
ロシア	51	1	27	3	26	0	4	9	4	11	36	0	0	7		3	182
計	580	178	376	200	108	57	33	86	87	30	286	3	125	44	1	103	2,297

桶川における
「＜世界の教科書＞巡回展」

2026年12月2日～12月10日
「OKEGAWA hon+」
(桶川駅西口駅前桶川マイン3階)

教育研究所は「教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献」を理念に掲げ、様々な研究活動を行っている。その活動の一つに越谷校舎における学園祭で開催される「世界の教科書展」がある(→2頁参照)。

今年で10回目となる巡回展は、「OKEGAWA hon+」(桶川駅西口駅前桶川マイン3階)にて、12月2日(水)～12月10日(木)に開催予定である。今年のテーマは「イタリアの教科書」。ラテン文学における文学的モチーフに関する研究で博士号を取られた早稲田大学イタリア研究所招聘研究員の宮坂真依子先生にご協力いただき、教科書の翻訳パネルを用意することができた。

教科書の実物は、12月5日(土)、6日(日)に展示される。12月6日には、宮坂先生にご参会いただき、イタリアの教育に関するレクチャーも行われる予定である。イタリアの現状や教育について、また、イタリアの文化などについて桶川周辺の地域の方たちと情報共有していきたい。

大学と地域との連携で自国の教育を考えていくにあたり、様々な国の教育との国際比較は重要である。その一環として、桶川の方たちに教育研究所の活動を紹介する機会となれればと願っている。

(研究部主任 萩原敏行)

2026年度
『文教大学の授業』執筆者紹介

- | | | |
|------|------|--------------|
| 第96号 | 教育学部 | 藤森 裕治 先生(既刊) |
| 第97号 | 文学部 | 野村 忠央 先生(既刊) |
| 第98号 | 情報学部 | 櫻井 淳 先生(既刊) |
| 第99号 | 国際学部 | 千葉 克裕 先生 |

「定例研究会」発表一覧

第111回 8月8日(土) 13:00～16:00

- ・「絵本を他者に紹介する」活動が持つ可能性～地域の場における絵本のビブリアバトルの実践を通して～

綾 牧子

- ・「生涯学習」を学ぶことの意味を再考する

阪本 陽子

- ・教員の専門性および学校危機管理の領域別対応についての検討

大西 健介

- ・教室談話から学習方略を測る——社会的資源としての方略抽出法と学習成果(転移)との関連——

占部 諒

- ・自己の生き方を考える児童の育成～日記から読み解く児童の思いや願い～

豊田 淳喜

第112回 10月31日(土) 13:00～16:30

- ・豊かなかわり合いの中で、今と未来にいきる

清水 香保里

- ・基礎教育の保障 ～学力保障 校内暴力の変化について～

矢作 由美子

- ・マレーシア 家庭科的内容教育の研究

木場 雪香

- ・「体験から生成される『問い』を連続させる指導者の介在に関する実践研究 一手仕事体験と地域リソースの往還を通じたAgencyの育成に着目して」

三菅 洋輔

- ・教員の初任期における不安感の変容と組織的支援の有効性について

新井 日陽

- ・特別支援教育に携わる教員の専門性の研究

佐藤 孝憲

第113回 3月6日(土) 13:00～16:00

- ・就学前教育と小学校教育とのカリキュラム接続の研究—2000年代以降の保育制度改革の動向とその特徴—(仮)

梨子 千代美

- ・質の高い深い学びの実現化を支える要素

小幡 肇

- ・自律的な学びの実現を志向する学習指導と間接的支援の在り方

津村 優里菜

- ・主体性を支える専門性に関する研究(仮)

青木 大輔

- ・学校・地域の健康教育に関する中欧と日本の比較研究

Szymon Gredzik

2026年度 教育研究所スタッフ

- | | | | |
|-------|--------|-------|------|
| 所 長 | 手嶋 将博 | | |
| 研究部主任 | 萩原 敏行 | 研修部主任 | 小林 稔 |
| 事 務 | 小藪 由佳子 | | |